

今月のインスタギャラリー

『#love mitoyo』 vol.14

問い合わせ 産業政策課 ☎73-3012

Instagramへ投稿された「ステキな三豊」情報をご紹介します。

おすすめスポット



トウモロコシ畑(三野町)

トウモロコシ収穫体験！ 取って楽しい。食べて美味しい。今、小さい子どもたちに必要な事。自然や、土に触れること。



しうでやま 紫雲出山(詫間町)

今日は仕事が休み、天気予報は晴れだったので日の出を撮りに早起きして来ました。



ちちぶがはま 父母ヶ浜(仁尾町)

We love mitoyo! 三豊いいとこ一度はおいで。いや、二度でも三度でも。

■お気に入りのスポット、グルメなど「あなたの三豊」情報を、Instagramに「#lovemitoyo」をつけて投稿してください。

【投稿方法】

Instagramをされている人は、

- ①アカウント「mitoyo.honma.mon」をフォロー(※QRコードを読みとってください)
②「#lovemitoyo」と場所、コメントをつけて投稿

あなたのとおきおきの三豊情報をお待ちしています!!



▲「Instagram」はこちらから



▲「ブログ」でも日々の情報を発信中!

じんけん探訪 93

性的マイノリティーを守る



「パートナーシップ宣誓制度」

2015年に渋谷区と世田谷区で制度が導入されて以降、本年6月時点で218自治体が導入し、現在の利用カップル数は2,832組です。県内でも2020年に三豊市から始まり、次いで6市7町が制度を導入して、これまでに30組が利用しています。

制度があること自体が、そこに暮らす当事者が自己肯定感を持つことに繋がります。親近者に理解されず孤立し、苦悩や葛藤にさいなまれ、自死することを考えてしまう人も未だ一定数います。地方自治体が率先して制度を取り入れることは、「我が自治体は同性同士で生活を共にしている人たちを守ります」という確かなメッセージを発信することになります。

しかしこの制度は、健康保険の被扶養者や子どもとの共同親権、所得税の配偶者控除、遺産相続、外国人パートナーの配偶者ビザなど、本来男女の婚姻制度には紐付けられるものが、一切付与されません。そのため制度を利用しても、国による同性婚の法制化を求める人は多いようです。ただ、性的指向・性自認にかかわらず誰もが利用可能な港区の「みなとマリājū制度」や、同性パートナーの子どもも家族とみなす「ファミリーシップ宣誓制度」など、多様な性や家族の形に対応する新たな制度も全国で始まっています。ファミリーシップ宣誓制度については、2022年1月に三豊市が県内で初めて導入し、続いて観音寺市も4月に導入しています。

アライとは、性的少数者の社会的地位向上や権

利擁護、平等の達成のため、協働したり寄り添ったりしたいと考え支援する人のことを指します。民間全国調査によると、言葉(アライ)の認知率は8%程度です。趣旨を説明すると半数以上が考えに共感するようですが、共感者の70%は、アライとして行動していないのが実情です。その理由は、「身近に当事者がいない」44%、「何ができるか分からない」40%でした。

また、職場においてアライがいるかという問いに「いる」と答えたのはわずか4%足らずでした。当事者は、日常の何気ない言葉に傷つくことがあります。もし相手がアライであれば、安心感が生まれ、コミュニケーションが取りやすくなります。例えば、相手に直接「アライです」と伝えたり、アライのバッジやストラップを身に着けたりすることで大丈夫だと伝えることができます。これは、性の多様性のシンボルとして普及しているレインボーフラッグと同じです。

誰かが自分のセクシュアリティに悩んでいたりと、打ち明けてくれたりしたときには、ゆっくり話を聞いてあげることも意味のある行動です。

SDGs(持続可能な開発目標)

2015年に国連は、加盟193カ国が2016年から2030年までの15年間で達成すべき17の目標を掲げました。それが「持続可能な開発目標」いわゆるSDGs(エス・ディー・ジーズ)です。その16番目に、「平和と公正を全ての人に」という目標が掲げられています。性的少数者の問題はここに入るとされています。「誰一人取り残さない」というのはSDGsのスローガンですが、今後も色々な局面で問われると思われれます。

▼問い合わせ 人権課 ☎73・3008



※セクシュアリティ…人間の性のあり方。性的特質や性的興味のこと

自分たちの地域は自分たちで守る

自主防災組織とは・・・

「自分の命は自分で守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」という考え方の基、自主的に防災活動を行う組織。平常時には災害に備えた取り組みを実践し、災害時には被害を最小限に食い止めるための応急活動を行います。

近い将来、発生が予測されている南海トラフ地震や各地で発生している大型台風、線状降水帯などによる大規模災害に備えるには、より一層の防災対策の充実が必要です。大規模な災害が発生したときには、市や消防などの対応だけでは被災者の救助や消火活動に限界があるため、自分の命は自分で守る「自助」、自分たちの地域は自分たちで守る「共助」が大変重要です。

住民が相互に助け合い、自分たちの地域は自分たちで守るために、共助の要である自主防災組織を作りましょう。

Q 自主防災組織はなぜ必要なの？

A 阪神・淡路大震災では、瓦礫の下から救われた人のうち約8割が家族や住民によって救出されています。また平成30年7月に、西日本を中心に広い範囲で発生した豪雨災害の避難調査でも、家族や近所の人との声掛けが多くなる避難につながったと報告があります。普段からの地域社会とのつながり、結びつきが重要であると再確認されました。



▼問い合わせ 危機管理課 ☎73・3119

見てみて! 薬用作物! Vol.8

線香手作り体験

7月12日(火)に、比地小学校3年生が除虫菊を使った線香作りを体験しました。笠田高校の生徒から作り方を教わり、子どもたちは熱心に取り組みました。材料には、笠田高校で収穫、加工された除虫菊の粉も使用されました。



▲黙々と作業する子どもたち



▲完成した手作りの線香

薬用作物「枳実」初収穫!

市内で栽培されている枳実が、定植後3年目を迎え、初収穫、初出荷となりました。農家の皆さんは、7月12日(火)に納品時の品質確認について説明を受けました。



▲収穫した薬用作物「枳実」



▶集まって品質の説明を聞く農家の皆さん

▼問い合わせ 農林水産課 ☎73・3040